



子供たちの命を守る温かいまなざし

校長 五十嵐 俊子

毎朝、登校してきた子供たちが、校長室を通るときに元気に挨拶をしてくれます。この時、いつも思うのです。「この子供たちの明るい笑顔を大切にしたい。どんなときも命を守り抜いてほしい。」自然災害時はもちろん、毎日の登下校時や学校生活の中で「授かった大事な自分の命を自分で守る」という意識を高めていきたいと考えています。

先月は、「命を大切にすること」「命を守ること」を重点に教育活動に取り組みました。全校児童への安全指導に加えて、第6学年には未来の社会の担い手として、自分はもちろん他人の命も守る体験学習を行いました。日本赤十字社や町田消防署の専門家と連携して、水の事故から命を守る方法や（着衣泳）、救急車が来るまでにできること（心肺蘇生法・AED）を真剣に学びました。

保護者のみなさまには、登下校時の安全見守りや引き取り訓練等、ご協力をいただきましてありがとうございます。地域にも、長年にわたって子供たちの登下校の見守りをしてくださっている方がおられ、頭の下がる思いです。交通安全運動の期間中には、本校教員も通学路に立って安全指導を行いました。改めて、通学時の学校周辺は、車の交通量が多いことに驚きました。一方、大人も子供も、よく見ず斜めに横断歩道を渡ろうとする等の危険な場面が見られました。日頃から地域ぐるみで、交通安全を心がけていきたいと思っています。



最近では、Jアラートが鳴った時の対応についても求められています。建物に入ること、窓から離れること、安全姿勢をとること等、基本的なことは指導しましたが、心配なことはとっさに飛び込める緊急避難所をどう確保するかです。急な雷・豪雨等の自然災害に遭遇した時も同じく心配です。このことについて、近隣の「ころころ児童館」の館長さんと話し合い、今年30日のハロウインの日に、お世話になっている「子ども110番の家」の一部を回るという児童館の企画に、今年は本校の教員も一緒について、挨拶に行こうと考えています。「子ども110番の家」は、屋外でのつきまとい等、子どもが不安を抱く事態に遭遇した際、助けを求めて飛び込める緊急避難所として登録いただく制度で、PTAで集約しています。本校ではすでに、140件以上のお宅やお店が登録してくださっています。今後も新規の登録が増えると、大変にありがたく思います。

先月、町内会の大切な2つの行事である「敬老会」と「合同総合防災訓練」が本校を会場に行われ、私も出席させていただきました。多くの方々が参加され、この玉川学園地域の絆の深さ、温かさ、そして防災意識の高さを感じました。これからも地域のネットワークの中で、子供たちへの温かいまなざしをいただければうれしく思います。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、学校に届いたすてきなお手紙の一部を紹介します。敬老会のプログラムの裏に第4学年の児童全員がメッセージを書いたのですが、そのお礼に何通かいただいたものです。温かいお手紙に感動しました。「敬老会での町五小のプラスバンドの演奏、すばらしかったですよ。私も86歳になりますが、敬老の日に皆さんから元気をいっぱいもらいましたので感謝です。先生方、お友達にもよろしくね。」
「やさしいあたたかいお便りをありがとうございました。私は85才、子供四人は、町五小でお世話になりました。みな50才前後で方々で活躍していますのであまり会えません。主人と二人で学校の近くで元気に暮らしています。近いので遊びに来てください。描いてくださった柿の絵は私の好きな果物です。庭の柿の木が実るのを楽しみにしています。私の四年生の頃は太平洋戦争が始まった年でした。みなさんに託された日本の将来はどうなっているのでしょうか。世界に知れた不戦の国。世界中に平和を発信し続ける国でありますよう、心から祈っています。」